

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	国語A	国語B
本校	70	64
広島県	73	59
全国	70.7	54.7

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査結果から、①漢字の意味を理解し、漢字を正しく書くこと②目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題があった。そこで、次の二点を工夫して取り組みを行った。（①漢字の意味を理解するために、漢字辞典を活用させる②目的や型（段落の数・文字数等）を示し、条件を付けて書く活動を設定する。）その結果、②については成果があったが、①については課題が残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

- ・登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができていない。(68.3%)
- ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う。(51.2%)

重点課題

- ・漢字の意味を理解し、漢字を正しく書くことができていない。(58.5%)
- ・登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができていない。(68.3%)
- ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う。(51.2%)

標準学力調査に向けた重点取組

- ・漢字の書き取り反復練習にとどまらず、部首やつくりから意味を推測しながら、漢字練習に取り組ませる。
- ・優れた描写、表現のある作品を積極的に読ませるとともに、言葉から受ける印象を授業の中で交流させ、読解力を高める。
- ・尊敬語、謙譲語、丁寧語について適切に理解させ、日常生活での会話や手紙等を書くときに敬語を意識して使うように指導する。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	・結果分析から改善計画を作成し、2学期以降の取り組みについて共通理解を図る。	・自主公開研究会を行う。			・学期末テストを実施・分析し、重点指導を行う。	・標準学力調査の実施	・標準学力調査の結果を分析する。	・次年度に向けて計画を立てる。
児童への取組		・国語科の授業研究の実施		【見取り】 漢字テスト 物語文の単元末テスト		【検証】標準学力調査 目標値 市平均以上の児童 80%		

のびのびタイム
(漢字・読み取る)・帯タイムの読書活動

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	算数A	算数B
本校	61	50
広島県	66	54
全国	63.5	51.5

本年度の結果について

○取組の成果と課題

- 生活場面等に結びつけた課題解決場面を設定することにより、問題の意味理解ができるようになってきた。
- 授業場面に「書く活動」を位置づけ、使うべき用語や説明の仕方を示して条件に応じた答え方をさせるよう取り組んだが、課題が克服できていない。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

- A問題については「除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している。」(31.7%)、「百分率を求めることができる。」(36.6%)、「円周率の意味について理解している。」(39.0%)などの課題があった。B問題については「折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる。」(34.1%)など、記述式の問題において条件に合った答え方ができていない。



重点課題

- 問題場面に出てくる数の数量関係が正確に理解できていないために立式を誤ったり、小数を含んだ四則計算を誤ったりする。
- 記述式の問題において、問題場面や、与えられた条件に応じて適切に回答することができていない。

標準学力調査に向けた重点取組

- 問題を解く際に正しく数量関係を把握させるために、絵や図を使って問題を解かせ、問題解決の方法と活用した定義や考え方をつなげて発表させる等、数学的な考え方と技能の接続を図る。
- 個のつまずきを分析し、四則計算の確実な定着を図る。
- 授業場面に、「問題解決の方法を説明し合うペア活動」や「書く活動」を積極的に取り入れる。その際、使うべき算数用語や説明の仕方を示すことにより、条件に応じた答え方を身に付けさせる。



取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> 問題分析をし、誤答の分析に生かす。 改善計画を作成し、2学期以降の取組について共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開研究会を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 学期末テストを実施・分析し、重点指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査の結果を分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けて計画を立てる。
児童への取組	のびのびタイムの実施（個別のつまずきに応じた指導の実施・課題を克服するための質と量を考えたプリント学習） 「説明し合う活動」や「書く活動」を取り入れた授業の実施（授業改善・経年研修の活用）							
				【見取り】 計算テスト 単元末テスト		【検証】 標準学力調査 目標値 市平均以上の児童 80%		

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	理科
本校	64
広島県	63
全国	60.3

本年度の結果について

○取り組みの成果と課題

昨年度の各種学力調査の結果から、実験の予想や結果、考察を記述する問題に課題があった。そこで、自分の言葉で書く活動の時間を設定し、書くことに対する抵抗をなくしていく取り組みを行った。その結果、記述式問題において無回答は0%という成果があったが、正答率は20.7%と低く、課題が残った。

○今年度の調査から明らかになった課題

「実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる。(14.6%)」、「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる。(26.8%)」など、実験結果を基に考察したり、分析したりして記述することに課題がある。

重点課題

- ・実験結果を基に比較しながら考察したり、分析したりして記述することに課題がある。
- ・理科用語を使った説明の記述ができていない。
- ・資料を正確に読み取る力が低い。

標準学力調査に向けた重点取組

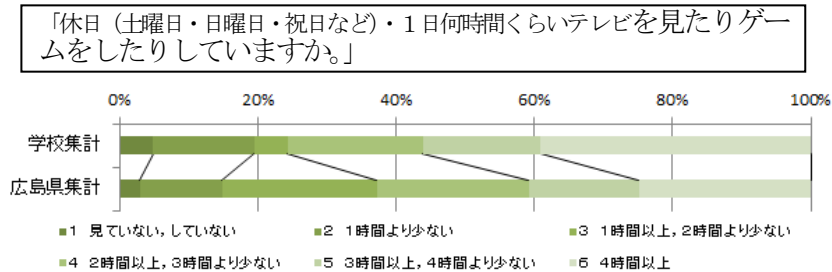
- ・毎時間、予想や考え、結果・考察などを自分の言葉で書く活動は継続して行う。
- ・書く活動の際には、ポイントになる理科用語を提示し、その用語を用いて書かせる。
- ・めあてとまとめの整合性を図り、短い文書で焦点化して書くことも継続して行う。
- ・実験方法や実験の意図を自分の言葉で書かせる。(理科用語や条件を提示する。)
- ・プリントでのドリル学習を継続して行う。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・全職員がそれぞれ問題を実際に解き問題分析をし、誤答の分析に生かす。	・改善計画を作成する。 ・授業改善の視点を明らかにする。		・授業研を行う。		・標準学力調査の実施	・標準学力調査の結果を分析	
児童への取組		・ポイントを提示し、理科用語を用いて書かせる。	・ペア学習を取り入れ、実験方法や考察について話し合う時間を取る。	【見取り】 計算テスト 単元末テスト		【検証】標準学力調査 目標値 市平均以上の児童80%		
		プリントでドリル学習(週末の宿題)						

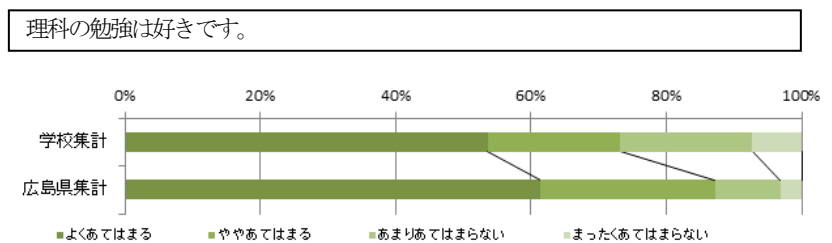
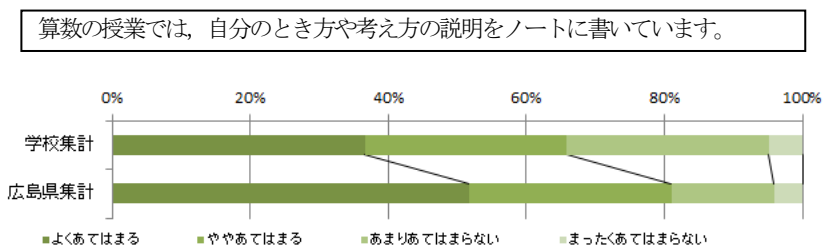
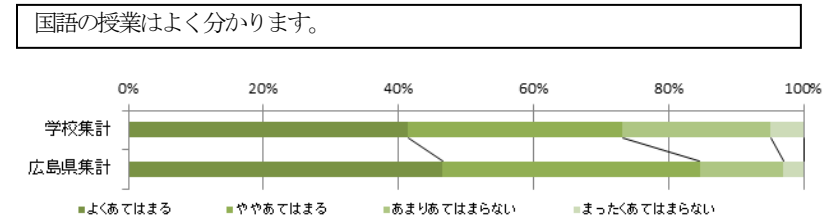
質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習



児童生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「休日（土曜日・日曜日・祝日など）・1日何時間くらいテレビを見たりゲームをしたりしていますか。」の項目で「4時間以上」と答えた本校の児童は39.0ポイントで、県平均より14.2ポイント高い。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・児童アンケートをとって、結果を示す。 児童には、全校集会等で結果を知らせ、テレビの視聴時間やゲームをする時間の短縮を呼びかける。 保護者に懇談等で呼びかける。 	全学年	「4時間以上」の児童の割合 県平均 24.8ポイント以下	保護者・児童アンケートの実施	10月末と1月上旬（計2回）		

(2) 教科



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業はよく分かります。」の項目で、本校の肯定的評価は73.2ポイントで、県平均より11.4ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立て、それを掲示し、児童が達成感を味わえるようにする。 単元を貫く言語活動を設定する。 	全学年	「国語の授業はよく分かる」と答える児童の割合 80%以上	児童アンケートの実施 単元末テスト 平均85点以上	学期末		
算数	「算数科の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに書いています。」の項目で、本校の肯定的評価は、65.9ポイントで、県平均より15.1ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業で、自分の解き方や考え方の説明をノートに書く時間を確保する。 絵・図・操作・言葉・式等、考え方の視点を与える。 	全学年	「算数科の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに書いています」児童80%以上	児童アンケートの実施 単元末テスト 平均85点以上	学期末		
理科	「理科の勉強は好きです。」の項目で、本校の肯定的評価は、73.2ポイントで、県平均より14ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、その学習内容が普段の生活とどのように関わっているかを考えさせる。 身近な問題として捉えさせることで観察や実験の目的意識を持たせ、主体的に計画を立てたり、結果から分析を立てたりできるようにする。 	3年以上	「理科の勉強は好き」と答えた児童の割合 80%以上	児童アンケートの実施 単元末テスト 平均85点以上	学期末		

